

## 公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	岐阜市立恵光学園		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 21日		2025年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16人	(回答者数) 14人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 21日		2025年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○訪問先施設評価実施期間	2025年 11月 21日		2025年 12月 19日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	16か所	(回答数) 16か所
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	架け橋期の支援として小学校の訪問を実施した。	令和7年度は、地域の小学校に就学した児童に対し、保育所等訪問支援を行った。手探りだったが、学校の先生とコミュニケーションや連携を取り、初めての行事を中心に支援を行うことができた。	架け橋期は環境が大きく変わるため、お子さまや保護者の方の不安や心配は強く、支援を充実させていくことができるよう学校に対して働きかける。
2	実践を積み重ねた支援の蓄積を訪問先施設で活かした。	保育所等訪問支援でのスキルだけでなく、児童発達支援センターでのお子さまへの関わり方や捉え方を、訪問先施設での支援に活かすことでこどもに適した環境作りや活動を提案した。	児童発達支援事業との交流や実践を交えることで専門性を高めていく。また、地域支援の取り組みの中で子どもを取り巻く環境についての理解を深め、支援に取り入れる。
3	丁寧なアセスメントによる個別支援計画を作成した。	令和6年度保育所等訪問支援ガイドラインに沿った内容で、個別支援計画の様式や内容を見直し、アセスメントによる支援目標をスモールステップで立てよう改善した。	保護者の方や訪問先施設の方に、お子さまの育ちや支援の内容が分かりやすくなるように、さらに改善を重ねる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援事業を知らない保育所(園)こども園、幼稚園、学校等が多い。	訪問先施設である保育所(園)こども園、幼稚園、学校等に対して事業の周知が足りない。また、令和6年度に策定された保育所訪問支援事業ガイドラインを踏まえた支援内容に変更した点についても、訪問先への説明が不十分である。	保育所(園)こども園、幼稚園、学校等が集まる機会に積極的に事業の説明をし、周知と理解を図る機会を作る。訪問先施設向けの事業案内のチラシをより分かりやすい内容に更新する。
2	保護者向けの学習会や保護者同士の交流が少ない。	今年度から保育所等訪問支援事業を利用している保護者に対してペアレント・トレーニングの案内をするようにしたが、参加者は2名と少なかった。	今年度ペアレント・トレーニングに参加された保護者から、好評であった。親子療育を経験していない保護者が多いため、こどもの関わり方について学ぶ機会になることを積極的に案内し参加を勧奨出来ると良い。また、保護者向け学習会の案内もする。
3	ICT化されていないため効率がよくない。	保護者と、訪問支援員と、訪問先施設と3者でのやりとりになるため、紙や直接話をする中で、コミュニケーションや信頼関係を築いてきた実績があり、他の方法に変えにくかった。	保護者や訪問先施設とのやりとりをメールやICTを活用することで効率的に、情報提供を行ったり、密に連携を取る。